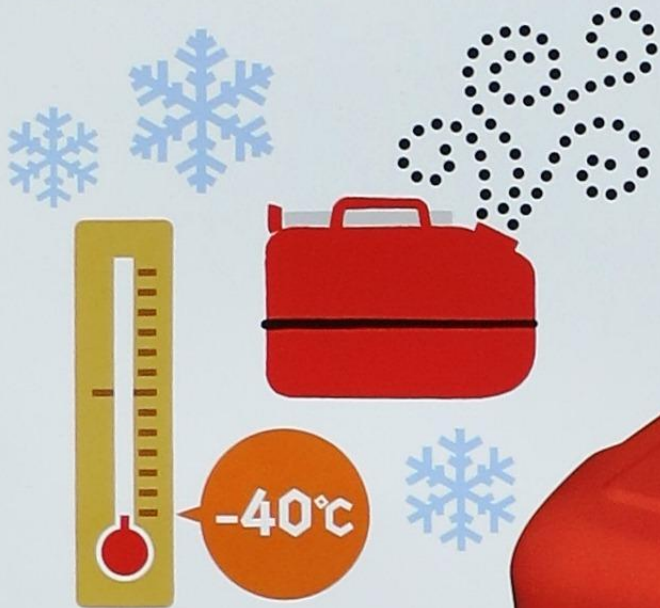


# ガソリン携行缶

正しく使う **6** つのポイント!

## 1 危険性について

ガソリンは気温が $-40^{\circ}\text{C}$ でも気化し、小さな火源でも、離れていても引火し、爆発的に燃焼する物質です。



軽油は $+40^{\circ}\text{C}$ で気化します

## 2 容器について

灯油用ポリエチレンかんにガソリンを入れることは非常に危険です。



ガソリンを入れる容器は消防法令により一定の強度のある材質を使用することと容量が制限されています。

## 3 購入について

セルフスタンドでは利用者が自らガソリンを容器に入れることはできません。



消防法令の基準に適合した容器でガソリンスタンドにて購入してください。

## 4 保管について

ガソリンを容器に入れて、長期間、または不必要に保管することは極力控えてください。



ガソリンは、揮発性が極めて高く火災が発生すると爆発的に広がるので、直射日光や高温になる場所には保管しないでください。

## 6 取扱いについて

使用時には取扱説明書をよく読み、適正な取扱いをしてください。



パッキンの劣化、キャップの締め方の不備等注入口からの漏れによる危険物漏えい事故の報告があります。

## 5 噴出事故防止について

ガソリン噴出は事故につながります。取扱いには十分注意してください。

### 噴出注意

- ✓ 周囲の安全を確認
- ✓ フタを開ける前に
  - ① エンジン停止
  - ② エア抜きをする
- ✓ 高温の場所禁止

ENK 危険物保安技術協会

ラベルのついた  
確かな製品を  
選びましょう



これが安心の印です。  
「試験確認済証」

ガソリン携行缶には、使用上の注意事項が表示されています。良く読んで安全にお使い下さい。このラベルは、消防法による容器性能試験に合格したガソリン携行缶に貼付されています。

